

ホタテガイ採苗速報

稚貝採取は2分では西湾、東湾ともに7月中旬からできる見込み
ムラサキイガイの付着が多いので、稚貝採取を早めに始めましょう

1 ホタテガイの付着状況

6月18～23日に行った第2回全湾付着稚貝調査結果は図1～3および表2、3のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は、間引きをしないものでは西湾で131,712個/袋と過去10年の平均値(平年値)117,448個/袋よりやや多く、東湾で192,897個/袋と平年値342,794個/袋より少なくなっています。また、間引き後の平均付着数は、西湾で31,002個/袋、東湾で31,991個/袋でした。

稚貝の平均殻長(間引きなし)は、西湾で2.26mmと平年値2.29mmとほぼ同じく、東湾で1.87mmと平年値1.53mmより大きくなっています。また、間引き後の平均殻長は、西湾で2.78mm、東湾で2.30mmと、いずれも間引きをしないものより大きいサイズとなっています。

2 キヌマトイガイ・ムラサキイガイ等の付着状況

キヌマトイガイの付着数(間引きなし)は、全湾平均で88,025個/袋と平年値138,654個/袋より少なく、ムラサキイガイでは144,940個/袋と平年値84,959個/袋より多くなっています。

なお、間引き後の採苗器の中にウミセミが見られた地区がありましたが、ヒトデの付着は見られませんでした。

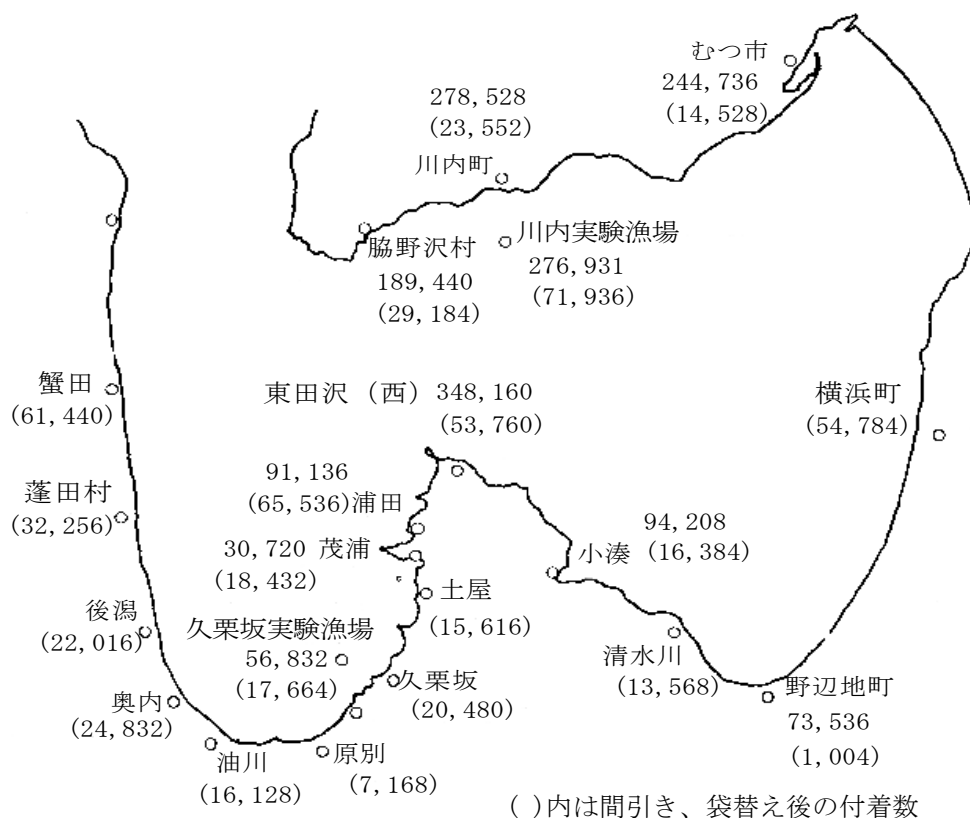


図1 調査地点毎の付着数〔単位：個/袋〕

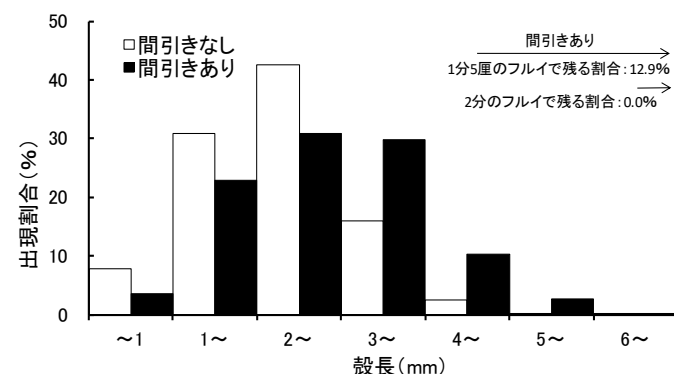


図2 ホタテガイの殻長組成(西湾平均)

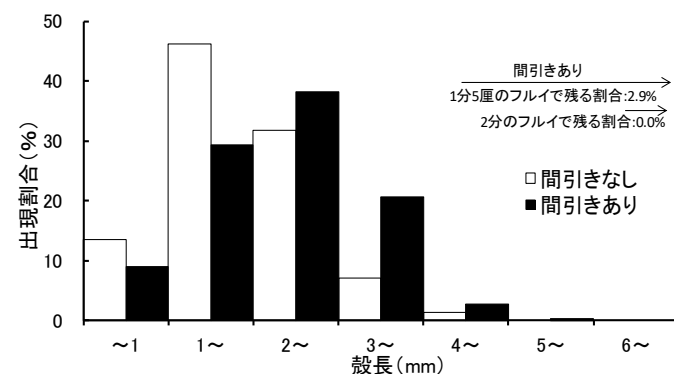


図3 ホタテガイの殻長組成(東湾平均)

3 今後の見込み

適正な付着数に間引いた採苗器については1分5厘のネットに稚貝採取する場合、フルイに5割残るのは、西湾、東湾ともに7月上旬から、2分の場合は全湾で7月中旬からの見込みです(表1)。

全湾でフルイに7～8割残るのは、1分5厘で7月中旬、2分で7月下旬の見込みですが、ムラサキイガイの付着数が多いので、早めに稚貝採取を始め、早めに完了しましょう。なお、稚貝採取時の注意事項は裏面にあります。

稚貝採取の詳細な時期については、7月5日に第2回臨時付着稚貝調査(間引き後の中層1袋)を実施し、7月8日発行予定のホタテガイ採苗速報第10号に掲載しますので、参考にしてください。

表1 全湾の稚貝採取予測時期

目合	フルイに残る割合	
	5割	7～8割
1.5分	7月上旬	7月中旬
2分	7月中旬	7月下旬

4 稚貝採取時の注意事項

(1) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょ

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキイガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくつつきやすくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょ

○採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜り、異常貝率やへい死率が高くなるので、稚貝採取は早めに完了しましょ

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょ

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょ。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょ。稚貝がへい死しない分散時の中層水温は23℃以下です。分散が遅れると稚貝が成長し、過密状態になることから異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょ。

(3) 採取後の管理に気をつけましょ

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょ

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょ。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょ。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょ

広がる海の知識！ 漁業後継者育成研修『賓陽塾』

身につける新たな技術！

塾生募集中！！ 詳しくは水産総合研究所まで